

■丸山幹治 新聞記者。戦前・戦中・戦後と一貫して自由主義の立場を守る評論活動を展開した。丸山真男の父。

まるやまかんじ

・・・・・・・・1880 = 長野県に生まれる。

明治14年政変1881 = 1歳：

帝国憲法発布1889 = 9歳：

日清戦争始・1894 = 14歳：

子規句歌革新1898 = 18歳：

東京専門学校卒業後、陸羯南の主宰していた新聞{日本}に入るが、

日露戦争始・1904 = 24歳：*＜日露戦争＞に従軍記者として戦地に赴き、戦場の凄惨な実相を報道したために追放処分にあう。

日露戦争終・1905 = 25歳：

一時{京城日報}編集局長をつとめた後、

韓国反日暴動1907 = 27歳：

伊藤博文暗殺1909 = 29歳：*{大阪朝日新聞社}に入ると、「丁稚制度の研究」というユニークな連載によって文名を高くし、

大逆事件判決1911 = 31歳：「丁稚制度の研究」を刊行。

明治天皇没・1912 = 32歳：

鳥居素川編集局長のもとで、民本主義を掲げる指導的言論報道機関だった{大阪朝日新聞}において、ニューヨーク特派員・通信部長などの要職を歴任して、その一翼を担ったが、

民本主義・1916 = 36歳：

本格政党内閣1918 = 38歳：＜白虹事件(大阪朝日新聞筆禍事件)＞で同紙が政府の言論弾圧に屈服した際、鳥居素川・長谷川如是閑・大山郁夫らとともに退社。

ㄱ 野村胡堂 1919 = 39歳：鳥居素川が{大正日日新聞}を創刊するや、外国通信部長として参加したが、

原敬首相暗殺1921 = 41歳：

同紙が間もなく営業不振に陥ったため、{読売新聞}に移って論説委員をつとめた。

治安維持法・1925 = 45歳：

その後、{中外商業新報}論説委員、{京城日報}主筆を経て、

共産党事件・1928 = 48歳：*{毎日新聞社}論説委員に就任。以後長期にわたって、同紙の短評欄{硯滴}(同系列の{東京日日新聞}では{余録}という題名)を担当し、

満州事変・1931 = 51歳：

帝人疑獄事件1934 = 54歳：

日中戦争始・1937 = 57歳：

日米開戦・1941 = 61歳：

創価学会検挙1943 = 63歳：

敗戦・1945 = 65歳：

独立回復・1951 = 71歳：

メーデー事件・1952 = 72歳：

テレビ放送始・1953 = 73歳：25年続けてきた{硯滴}({余録})の執筆を終え、

自衛隊発足・1954 = 74歳：「余録二十五年」を刊行して、

55年体制始・1955 = 75歳：没した。